

コース名	創造技術コース	必修・選択	選択	単位	2	学期	4Q
科目群	ヘルスケア・デザイン科目群	科目名 (英文表記)	ヘルスケアデザイン特論 Health Care Design			教員名	田部井 賢一

概要	<p>「ヘルスケアデザイン」とは、私たちがより健康で豊かな生活を送るために、製品、サービス、環境、そして体験をデザインする新しい学問分野です。その根底には、ユーザー（患者さんや医療従事者など）への深い共感に基づき、課題を解決していく「デザイン思考」があります。このアプローチは、単に病気を治療するだけでなく、一人ひとりの「ウェルビーイング（より良く生きる状態）」の向上を目指します。多様な人々の視点を取り入れ、既成概念にとらわれない創造的な解決策を探索する、その柔軟な思考プロセスこそがヘルスケアデザインの核心です。本科目では、まずデザイン思考の基礎理論と具体的な手法（ユーザー調査、プロトタイピングなど）を体系的に学びます。その上で、国内外の先進的な企業や研究機関が、デザイン思考を用いて生み出した革新的な医療機器、ヘルスケアサービス、患者体験向上のためのソリューションなどを豊富な事例と共に紹介・分析します。これにより、理論と実践を結びつけ、複雑な健康課題に対する新しい視点を養います。</p>		
目的・狙い	<p>本科目では、ヘルスケアデザインを体系的に修得し、修得した知識を実際に適用して問題の解決を試みていく。さらに問題の解決にヘルスケアデザインを適用する中で、限界を見つけ再構築する能力、妥当性と有効性を批判的に評価する能力を修得することを目的とする。</p> <p>また各講義のテーマにおいて、顧客のベネフィットを最大化する製品やサービスを創造的、合理的に開発していく場面で各自で考案し、その内容の可能性についてグループ討議を行い、講義内容の理解を深める。</p> <p>修得できる主な知識・スキルは次である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康に関わる分野の特徴、利用用途、利用ノウハウ 2. ヘルスケアデザインシンキングの原則 3. ヘルスケアデザインのメソッド 4. ヘルスケアデザインを社会で応用検証する実用的なスキル 		
履修条件 (履修数の上限、要求する前提知識等)	<p>前提知識は特に必要ないが、顧客のベネフィットを最大化する製品やサービスを創造的、合理的に開発していく場面でヘルスケアデザインを応用検証していこうと探求する姿勢を持つこと。</p> <p>オフィスソフトの基本を扱えること。授業の議論には、積極的な取り組みが求められる。</p> <p>グループの議論には、積極的な取り組みが求められる。</p>		
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>ヘルスケアデザインについて、体系的に理解し人に説明できる。</p> <p>ヘルスケアデザインを問題の解決に適用する中で、限界を見つけ再構築し、妥当性と有効性を批判的に評価できる。</p> <p>最低到達目標</p> <p>ヘルスケアデザインについて、体系的に理解できる。</p> <p>ヘルスケアデザインの利用価値の評価ができる。</p>		
授業実施形態 (単一または複数から構成される)	形態	○は実施を表す	特徴・留意点
	対面型	—	
	ハイフレックス型(オンタイム)	—	
	ハイフレックス型(録画併用)	○	スライドを利用して講義し、manaba にて双方向、多方向に行われる討論や質疑応答を行う。 各講義ごとに、講義内容に対する簡単な課題の提出を求める。
録画視聴型	—		
授業外の学習	<p>配布資料の予習復習</p> <p>課題が指示された場合は、その課題に取り組み、報告すること。</p>		
授業の進め方 (グループワーク方式など、進め方の特徴)	<p>講義を基本とし、適宜、グループワークや演習を行う。</p>		

	回数	内容	授業実施形態 [対]、[ハ]、[録]
授業の計画	第1回	本科目のオリエンテーションを実施する。概要とその狙い、実施方法、評価方法を説明する。これらの説明に加え、科目の選択判断が可能となるように、全15回の講義テーマの紹介を行う。 オリエンテーションに加えて、ヘルスケアデザイン全般に関する講義も実施する。	[ハ(録)]
	第2回	健康とは何か 病いの経験、患者の生活の質、社会によりもたらされる健康と病気、ワーク・ライフ・バランスと健康などをキーワードに、健康に関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第3回	医療消費者 患者の権利と医療の質、医療倫理、医療と情報提供、医療システム、スティグマ、セクシュアリティ、格差などをキーワードに、医療消費者に関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第4回	健康と研究 研究の意義と必要性、WHOによる国際生活機能分類、地域の健康水準、健康規定要因、障害調整健康余命、調査研究、食生活と健康研究、質的な調査研究、混合研究方法などをキーワードに、健康と研究に関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第5回	ストレス ストレス対処と健康生成論、健康生成論的アプローチ、自己効力感などをキーワードに、ストレスに関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第6回	ヘルスリテラシー ヘルスリテラシーの評価と教育などをキーワードに、ヘルスリテラシーに関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第7回	ソーシャルサポート 意思決定支援、患者・当事者同士のサポートグループ、専門家によるセラピー、家庭医・総合診療医によるアプローチ、医療者・市民の協働による学びなどをキーワードに、ソーシャルサポートに関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第8回	ヘルスケアデザインシンキングの原則1 人間中心、共感、コ・デザイン、社会的決定要因、クリエイティブ・マインドセットなどをキーワードに、ヘルスケアデザインシンキングの原則に関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第9回	ヘルスケアデザインシンキングの原則2 問いかけ、可視化などをキーワードに、ヘルスケアデザインシンキングの原則に関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第10回	ヘルスケアデザインシンキングの原則3 プロトタイピング、ストーリーテリングなどをキーワードに、ヘルスケアデザインシンキングの原則に関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第11回	ヘルスケアデザインシンキングのメソッド1 デザインワークショップ、ブレインストーミング、インタビューなどをキーワードに、ヘルスケアデザインシンキングのメソッドに関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第12回	ヘルスケアデザインシンキングのメソッド2 フォトジャーナル、ペルソナなどをキーワードに、ヘルスケアデザインシンキングのメソッドに関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第13回	ヘルスケアデザインシンキングのメソッド3 ロールプレイング、役割カード、ストーリーボードなどをキーワードに、ヘルスケアデザインシンキングのメソッドに関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第14回	ヘルスケアデザインシンキングのメソッド4 ジャーニーマップ、プロジェクトボードなどをキーワードに、ヘルスケアデザインシンキングのメソッドに関して学ぶ。	[ハ(録)]
	第15回	ヘルスケアデザインシンキングのメソッド5 データ・ビジュアライゼーション、利用実態調査、空間データのマッピングなどをキーワードに、ヘルスケアデザインシンキングのメソッドに関して学ぶ。	[ハ(録)]
	試験	最終試験：本授業の理解度を評価するために最終試験を実施する。(試験の方法は、別途説明する。)	[ハ(録)]
成績評価	次のポイントで評価する(合計100点満点)。 ・講義への参画度 30点：授業中に提出を求める演習、よい議論に関しても評価 ・レポート 40点：数回のレポート内容を評価 ・最終試験 30点：講義終了後に、これまで獲得した知識・スキルを総合的に評価		
教科書・教材	適宜 LMS で配布する。		
参考図書	江口ら 編. ヘルスリテラシー：健康教育の新しいキーワード。(2016). 大修館書店. NHK スペシャル取材班 著. 健康格差：あなたの寿命は社会が決める。(2017). 講談社. ボン・クラ 著. ヘルスデザインシンキング：デジタルヘルス/ヘルステックに向けて：医療・ヘルスケアのためのデザイン思考実践ガイド。(2020). 日本：ビー・エヌ・エヌ. 一般社団法人 日本健康食品・サプリメント情報センター 編. 健康食品・サプリ[成分]のすべて(第7版) ナチュラルメディシン・データベース日本対応版。(2022). 同文書院.		